臺灣ヨリ我庭ニ移シタ　そてつしだ (Brainea insignis J. Smith.)

○蘇鐵狀の奇羊齒　そてつしだ

緒方正資

昨年臺灣カラ來タ一羊齒ガ私ノ庭デ葉ヲ出シタノデ早速之レヲ撮影シタモノガコノ寫眞デアル此ノ羊齒ハ木性デ莖ノ直徑ハ約三寸位形狀ハそてつノ莖ニ彷彿タリ是レそてつしだ一名そてつもどきノ和名ノ起原デアラウ然シコノ莖ヲ形容スル言葉ハそてつヲ知ラナイモノニハ適當ノ語ヲ見出スニ困難デアルコトハ Beddome ガ Caudex as thick as a man's arm ト云フ樣ナ無粹ナ語デ之ヲ形容シテ居ルノデモ分ル然シコノ羊齒ガ三尺位ノ前ニ記シタ樣ナ莖ヲ出シ其頂點及ビ側枝ノ頂部ニ「フロンド」ヲ開出シタ狀ハ全クそてつノ樣ニ見エル、學名ハ Brainea insignis J. Sm.

蘚鐵狀ノ奇羊齒そてつしだ

そてつしだ (Brainea insignis J. Sm.)
(W.J. Hooker's Filices Exoticae ヨリ)

ト云フ Brainea ハ始メテコノ羊齒ヲ遠ク歐洲ノ地ニ輸入シタ C. Brayne ト云フ人ニ因ンダモノデ insignis ナル種名ハ顯著ト云フ意デアル即チ顯著ナル形狀ヲシタコノ羊齒ノ形カラ來タモノト考ヘラレル、葉狀體ガ嫩イ時ハ邊緣多少紅色ヲ呈シ子囊群ハ各羽片ノ中筋ニ密接シ密生シテ居ル樣ニ見エルガヨク見ルト中筋ノ兩側ニハコレニ並行シタ長方形ノ區劃脈ガアッテ其外側ニ密着シ各細裂片ノ先端ニ達セズシテ終ッテ居ル、元來熱帶産ノモノデ英領印度デハ三、四千呎ノ處ニアルトノコトデアル、マタ香港邊ニモ既ニ知ラレテ居タガ遂ニ吾臺灣ニモ知ラル、ニ至ッタ即チ今ノ處デハ臺灣ハコノ羊齒ノ北限デアラウ然シ臺灣デハ決シ

テ普通ナ種類デハナイ、内地デ此羊齒ヲ植栽シテ居ル人ハ他ニマダナイ樣ニ思ハレルガ溫室デナクトモ「フレーム」ナラ差支ナク栽培スルコトガ出來ル

○箱根矢竹トハ果シテ何者ゾヤ

澤田武太郎

故、坪井伊助翁著『竹類圖譜解說』四十九頁やだけノ條ニ「本竹ノ一變種にして、箱根矢竹と稱するものあり、凡の形狀前者に等しと雖も、全形稍小にして竿高七八尺周六七分に達するもの尠く、葉長三四寸乃至六寸幅三四分乃至五六分なると、籜色淡紫を帶ぶるを異とす。」ナル句アリ是レ箱根ニ住スル余ニハ實ニ妙味アル語ナリ何ントナレバ牧野先生ガ本誌第三卷六號ニ發表サレタル Sasa Hisauchii Makino. ハ箱根ニ於テハ一般ニやだけトシテ呼バルヽモノニシテ其形狀やだけニ似タル所アリ且ツ坪井氏記載ト合致スル所少ナカラズ余ハ本年其籜ヲ檢シテ綠色ニ淡紫ヲ帶ブルヲ知リ益々坪井氏ノ語句ニ興味ヲ感ゼシヲ以テ茲ニ一言ヲ費シ以テ同好ノ參考ニ供セントス、タヾ坪井氏ハ籜面毛ノ有無ニ論及セザレドモ矢竹ニハ毛アリ此竹ニハ毛ナシ是レ最モ大ナル兩者區別ノ點ナリトス

此ノ Sasa Hisauchii Makino. ハ始メ强羅ノ松永安左衛門氏構內ノ山地ニ發見サレ後宮ノ下附近ニ其存在ヲ認メラレ昨夏牧野先生ハ宮城野附近ヨリ小塚山ニ達スル一帶ノ地ニ產スルヲ確カメラレタルニヨリ本竹ノ箱根ニ於ケル分布ハ甚ダシク擴張セラレシ結果之ヲ山人ニ質シタルニやだけノ方言ヲ得タリ然レドモ本來ノやだけトハ種ヲ異ニスルハ頗ル明白ナル事實ナリトス

Sasa Hisauchii Makino. ハ Pseudosasa Hisauchii Makino. ノ異名ヲ有シ又 Sasa japonica Makino forma hahonensis Makino（坪井伊助著竹類圖譜第八十葉 nom. nudum）ノ名アリ又同圖譜第六十五葉ニ其稈ヲ